

米国の AI権利章典 (AI Bill of Rights) について



令和4年12月

内閣府

科学技術・イノベーション推進事務局



AI等を巡る米国の状況

- 急速に米国社会に普及、非常に大きな利益をもたらした。今後、社会のあらゆる部分を再定義しすべての人の生活をより良くする可能性を秘める。

その一方で、

- 米国国民の権利を脅かすような方法（例：機会を制限、重要なサービスへのアクセスを妨げる等）で利用されている。 ⇒ 今日の民主主義にもたらされる大きな課題。

これらの結果は非常に有害であるが、避けられないものではない。

- かつて米国は、創設したばかりの強力な「政府」に侵害されていた国民の権利（表現や集会の自由、正当な手続きや公正な裁判を受ける権利、不当な捜索や押収に対する保護等）を保障するため権利章典（The Bill of Rights）を採択した。

21世紀の現在、生み出したばかり強力な「技術」により国民の権利が侵害されている。

- バイデン大統領は2021年1月の就任以来、プライバシーの権利を含む米国の基本原則である公民権や民主主義的価値を守ることを呼びかけ、また指示を出してきた。



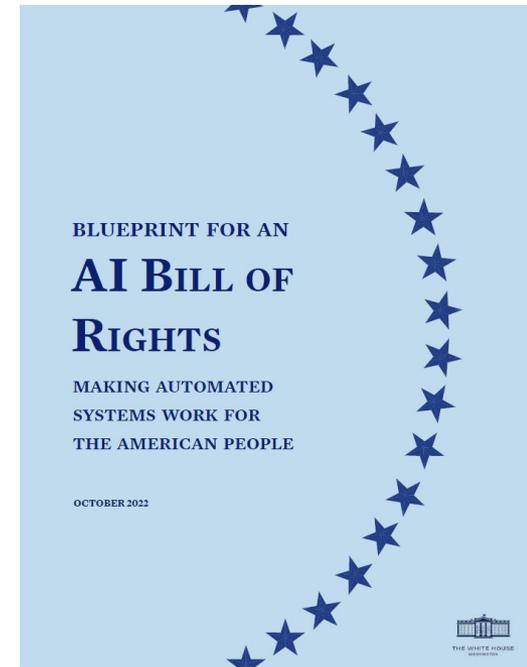
米国科学技術政策局は、2021年10月から新たな「権利章典」の開発に着手、AIの時代に米国国民を保護するためのAIを含む自動化システムの設計、使用、導入の指針となるべき5つの原則を特定し「Blueprint for an AI Bill of Rights」を2022年10月に公表した。

「Blueprint for an AI Bill of Rights (AI権利章典の青写真)」の概要 3

AIを含む「自動化システム」を構築しガバナンスする際に、米国民の人権を保護しつつ民主主義的価値を推進するための政策及び実践方法の開発のサポートを目的とした白書。既存の法令や規則を修正したりするものではなく、法的拘束力はない。

対称：米国民の権利、機会、または重要な資源やサービスへのアクセスに重大な影響を与える自動化システム

構成：「5つの原則」と、それぞれの原則に付随する問題点・実践方法・実践事例をまとめた技術文書「原則から実践へ」



5つの原則

① 安全で効果的なシステム

ユーザーは安全でないシステムもしくは効果のないシステムから保護されるべきである。

② アルゴリズム由来の差別からの保護

ユーザーはアルゴリズム由来の差別を受けるべきではない。システムは公平に機会を提供する方法で利用および設計されるべきである。

③ データのプライバシー

ユーザーは、組み込みの保護機能を通じて不正なデータから保護されるべきであり、自身に関するデータがどのように使用されるかを知る権限を持つべきである。

④ ユーザーへの通知と説明

ユーザーは自動化システムが使用されていることを知り、それが自身に影響を与える結果にどのようにして、またなぜ寄与するのかを理解するべきである。

⑤ 人による代替手段、配慮、フォールバック

適切な場合、ユーザーは必要に応じて自動化システムの使用をオプトアウトすることができ、問題が生じたときに、その問題を迅速に検討して解決できる担当者に連絡ができる手段を持つべきである。

5つの原則+実践方法の特徴

- 各原則：ゴールベース（保護すべき権利） ← 他の価値との関係
 - ① 安全で効果的なシステム ← 安全性、適正な学習、適正な利用、コスト(効率)
 - ② アルゴリズム由来の差別からの保護 ← 公平性、多様性・包摂性、適正な学習
 - ③ データのプライバシー ← プライバシー、セキュリティ、適正な学習、追跡可能性
 - ④ ユーザーへの通知と説明 ← 透明性・説明可能性、アカウントビリティ
 - ⑤ 人による代替手段、配慮、フォールバック ← 人間の判断の介在・制御可能性、公平性
- 各実践方法：各原則の保護機能を政策、実践、または技術設計プロセスに組み込むために、コミュニティ、業界、政府、およびその他が取るべき具体的な手順と例を記載。

政府から大小企業等の様々な状況の人がこの文書を参照用として利用することを想定。
- 一部の手順：今後対応が必要になるものを含む。
 - ✓ 組み込み型の保護機能（データの不正使用からの保護、バイアスの検知と軽減措置等）
 - ✓ 個人データの使用の追跡、許諾の取り消し機能
 - ✓ 自動化したシステムの使用のオプトアウト、フォールバック機能 など

今後の対応

- 米国連邦政府各機関で本文書の推進と米国国民を保護し支援する取組を進める方針。
(2022.10.4 米国科学技術政策局ファクトシートに各機関の取組がまとめられている)